

第4期横浜市南区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会にかかる意見書（集約）【確定版】

施設名： 横浜市大岡地域ケアプラザ
 応募団体： 社会福祉法人横浜市社会事業協会

委員名	意見（評価できる点等）	質疑	回答
八森委員	<ul style="list-style-type: none"> ・3館合同施設のメリットを活かした地域活動 ・出張相談の定期開催等利便性に配慮した取り組み ・サロン活動や居場所づくりへの取り組み ・地域住民主体「サービスB」の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい児者に対する取り組みについて情報が欲しい ・前期の指定管理業務の実績報告書の中で、令和元年度に個人情報記載書類の紛失が2回あったとある。現状として、情報のデータ化、執務室のレイアウト変更等を実施検討中とあるが、最終的にどのような対応を行ったのか。 	<p>・地域にある障がい者の作業所の職員の方々と話す中で、同じ町内の中にあってもなかなか町内の方々と交流もなく、このような作業所はどうしても「閉鎖的」になってしまう。もう少し地域に開かれた作業所にしていきたい、ということで地区社協の役員とも話し合い、地域の方々にももう少し何か関心を持っていただけるような取り組みができないか検討し、地区社協と作業所、そしてケアプラザの3者でまず検討会を持ち、約1年間の協議の末、作業所を会場とした「介護予防体操教室」がオープンし、地域の高齢者、作業所の職員、また通所されている方々との交流の場となっています。</p> <p>・地域の特別支援学校の生徒は高等部を卒業すると社会に出ていくことになるという話しを聞き、先生方と「社会体験の場」としてケアプラザで「ボランティア体験」を試みたらどうだろう、それも単発の取り組みではなく、授業の一コマに位置付けていく、というところからスタートし、約1年かけて検討し、双方の取り組みとして実施に至りました。ケアプラザで行っている高齢者のサロンに約半年間継続して、同じ学年の生徒さんたち約10名が関わっていく、これまではどちらかというと「人に何かをしてもらう」側に立っていた彼らが、「人のお手伝い」をすることで、「他者から感謝される」そのような体験は彼らにとってもとても新鮮なことであり、学校の中だけでは得られなかった貴重な体験だったと聞いています。現在でも実施しており、また、この取り組みを機に、同学校の別の学年の生徒さんたちの「インターンシップ」の受け入れにもつながっています。</p> <p>・まず、「当該利用者への謝罪」を行いました。11人中10人の利用者に連絡がつき、事故の説明、謝罪及び既納利用料の返金を行いました。残る1人については、(紛失により名簿がないため)、ホームページにてご連絡いただけるよう呼び掛けておりますが、連絡がつかない状態です。</p> <p>次に、再発防止のための対応として、盗難・紛失両面の可能性が考えられたため、3月19日付で南警察署刑事課に相談をしました。①誰かが盗ったという確証がない、②なくなった時期が特定できない、③単なる紛失という可能性も否定できない、という理由で刑事課としても受理はできないということでした。</p> <p>職場内での対応として、所長から全職員に文書で「働きやすい職場づくり」を伝達しました。2度にわたる文書の紛失を受け個人情報の取り扱いに係るルールの徹底、信用の回復の必要を訴え、職員一人ひとりの自覚を求める所長名の文書を全職員に交付しました。三度目の発生があった場合は警察による捜査の対象となることも伝え全職員の協力を要請しました。</p> <p>また、紙ベースの個人情報の資料は、可能な限り電子化を行い、物理的に持ち出しが困難な状況を構築いたしました。文書は法人の専用サーバーで保管するとともに、個人情報を含むメモ類(例、利用者から電話があり、担当職員に電話番号を申し送りするようなケース)についても、法人で契約しているチャットツールを用いることにより、紙の使用を取りやめました。</p> <p>さらに、紙ベースで管理せざるを得ない情報については、3月25日に事務所レイアウトの変更を行い、新たに個人情報記載文書保管用の書庫を設置しました。書庫は常時施錠とし、使用の都度に関錠・施錠することとし、書庫の関錠・施錠は、所長・主任(不在時は事務職員)が行うことを徹底しました。</p> <p>なお、当初は防犯カメラの設置を検討しましたが、本日現在上記対策が奏功していることを踏まえ、設置の検討は見送りしました。</p>
加賀美委員	<p>本大岡、井土ヶ谷、大岡地区の一部、震災を免れて俗にいう下町、保守的な風情が残る人情味溢れる地域を受け持ち、福祉事業を長年にわたり展開されてきた実績は大であります。3館の強みを生かし、3館合同事業の実施や地域との連携も順調でこの先の不安なく推薦するに値します。</p>	なし	
加藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の中「出張相談」で地域に根ざし、成果をあげている事 ・出張相談が定期的に行われており、高齢者にとっては、心強い事だと思う。 ・3館の連携により、広い地域の中での困り事を救いあげることが出来ていると思う。 	なし	
川井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・3館連携の強化を目指す視点を評価します。3館が連携可能である強みをイベント開催等にとどまらず特徴を活かした相互交流によりそれぞれに新しい変化や発展につながることを期待しています。 ・運営ビジョン、団体の状況、職員配置及び育成、施設の管理運営、事業について理解しました。 	出張相談について、時間や内容、その後の経過等を伺いたい。(伺える範囲で。)	<ul style="list-style-type: none"> ・出張相談については、ケアプラザからも区役所からも距離の離れた井土ヶ谷地域の方が相談しやすいように、町内会館や地域で開催する「サロン」の場などをお借りして、4か所の会場で、毎月、各1回ずつ、合計月4回、包括職員が出張相談に出向いています。基本は予約制で、1回の相談会で2名の相談。一人あたり約1時間を目安に相談をお受けしています。相談内容は介護保険の申請から、認知症対応、家族関係、経済的困窮、成年後見や死後事務、また、最近では引きこもりの相談など、内容は多岐に亘っています。相談を受けた職員は、介護保険の申請であればサービスにつながるように居宅介護支援事業所と調整したり、また、区役所の担当部署や他の専門機関につなげたり、地域の方からの相談については、その後の状況を伺うなど、継続的に必要なサポートを行っています。昨年度は、本人、家族、地域住民、民生委員等から、年間40件の相談を出張相談にて受けています。会場を拠点として、相談があった方の自宅を訪問することもあります。サロン等と同時間開催している3カ所の会場ではサロン等の参加者から日常生活課題を聞き取ったり、民生委員と情報交換するなど、多機能的な場として活用もしています。
佐藤委員	<p>子育て支援においては、妊婦への事業（マタニティヨガ）も展開しており、出産後の子育てサークルだけでなく出産前から女性同士の仲間づくりに取り組まれている。</p>	5事業(1)全事業共通 ウ 各事業の連携及び関連施設との連携について ・大岡地区センター・南スポーツセンターとケアプラザと3館が、「強み」を活かしてと記載があるが、ケアプラザにおける強みは何だと思われますか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアプラザの強みは何よりも「地域との関わりの深さ」と「地域を知っている」ことにあると思います。スポーツセンターも地区センターも地域との関わりを持って仕事されていることに違いはありませんが、ケアプラザの場合は、区の「地域福祉保健計画」の事務局としてしっかりと地域の具体的に関わらせていただく中で、地域の様々な団体や関係機関、地域の関係者とも日常的に交流を図り、良い関係を築いてきています。具体的にひとつあげると、この箇所に記載した「インターンシップの受け入れ」も、ケアプラザからスポーツセンター、地区センターに発信し、3館合同でこの事業を進めていくことを取りまとめてきました。日頃から地域の関係機関の方々と関係を良好に保ち、また「地域を良く知っている」からこそ出来たことなのだと思います。
中根委員	<p>高齢化率など地域の特性をよく把握されており、課題の抽出も的確だと思いました。生活支援体制整備事業「サービスB」では課題も多いようですが、地域住民主体という方向性がはつきり打ち出されており、興味深い取り組みです。出張相談も評価できますし、相談機関として連携を重視している事もよく分かりました。</p>	関係機関との連携を強めていく上で、努力、工夫されている点があれば教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの地域で策定している「地域福祉保健計画」の推進のためには、地域をバックアップする関係機関の連携が欠かせません。特にバックアップ体制の中心となる区役所、区社協、ケアプラザが地域の目標や課題、また支援の方向性など、共通して把握しておく必要があると思います。その共通認識を持つためのツールとして「地域支援計画・振り返りシート」を活用し、それぞれの地域での目標から具体的な取り組み、課題や成果などをそのシートの中に盛り込み、共同して対応していくことができる形を作っています。
高羽委員	<ul style="list-style-type: none"> ・駅から近い、山坂がない一立地条件が非常に良い。 ・平日午前中稼働率65%超え。 ・地域ケアプラザの役割 ・3館連携の強化。3館（スポーツセンター、地区センター、ケアプラザ）の強みを活かしているところ。 ・出張相談を町内会館や地域で開催する「サロン」の場を活用し、参加者から日常生活課題を聞き取ったり、民生委員と情報交換する場とし、身近な所で、努力して下さっていることを評価します。今回の新型コロナで学んだことは人と人との交流の場がいかに大切かと思えます。 	なし	
伊藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性や課題を把握している。 ・スポーツセンター、地区センター、ケアプラザが相互に連携することにより、幅広い年齢層にアプローチされている ・出張相談 	なし	